

山口子ども太鼓クラブ “祭”

卒業記念公演



【日 時】 2021年3月21日(日) 10:30~11:30 (10:15開場 *チケット制)

【会 場】 山口ホール (山口センター1階)

【出演者】 山口子ども太鼓クラブ “祭” メンバー 12名

＜6年＞ 近藤・平野・安田

＜5年＞ 天野・今井・大嶋・芝田・辻本・藤井

＜4年＞ 小倉・真壁・森脇

【演 目】 「エイサー」「みのり太鼓」「三宅島木遣り太鼓」「豊年太鼓」「海の太鼓」
「海のお囃子」「ぶち合わせ太鼓」「秩父屋台囃子」

いつも私たちが温かく見守ってくださり有り難うございます。お陰様で、10月末には、延期されていた昨年度の卒業記念公演を開催することができました。

あれから5ヶ月しか経っていませんが、次は私たち6年生3名が卒業します。コロナ禍の影響により、今期メンバーでのステージは、一度もありませんでした。そのため、今回の卒業記念公演は、私たちにとって「最初で最後のステージ」となります。

今も様々な活動制限はありますが、「今できる精一杯のステージを作る」を目標に、練習に励んでいます。もしお時間がありましたら、是非見に来てください。お待ちしております。

※尚、今回はチケット制をとり、入場者数に制限を設けております。お手元のチケットに必要事項をご記入の上、ご持参いただきますよう、お願いします。

演目紹介

エイサー (沖縄県)

沖縄の伝統芸能のひとつで、本土の盆踊りにあたります。各地域の青年会ごとにそれぞれの型をもち、旧盆の夜に、踊りながら地域を練り歩きます。今回は「仲順流り」「安里屋ユンタ」「唐船ドーイ」の3曲を踊ります。

みのり太鼓 (塩原良 編曲)

元々は、石川県能登半島に伝わる雨乞い太鼓「天平太鼓」をモチーフに、和太鼓奏者「塩原良」さんが編曲した太鼓です。

太鼓の面に撥を押し付ける独特の叩き方をする「こばい」と言われる地打ちの上に、表のリズムである「おおばい」を乗せていきます。

三宅島木遣り太鼓 (東京都三宅島)

東京都の潮路はるか180kmの太平洋に浮かぶ、緑と小島の楽園三宅島。しかし時としてその姿を変え、大きな地鳴りと共に、幾度もの大噴火に見舞われています。その穏やかさと厳しさの両面を持った、大変厳しい環境の中で育まれたこの太鼓は、小手先の技術や複雑なリズムを刻むのではなく、腰を落とした姿勢のまま、ただひたすら力の限り、全身全霊込めて打ち鳴らす太鼓です。最初と途中で歌われる唄は、木材を切り出す時に唄われた労働歌で、「木遣り唄」と言います。

豊年太鼓 (石川県能登半島)

石川県能登半島の旧七尾町に伝わる雨乞い太鼓です。もともとは、豊作を願って演奏されていた雨乞い太鼓で、雷鳴のような地打ちに合わせ、気持ちを含めて一打一打力強く打つ太鼓です。今では雨乞いの時だけでなく、豊作を祝う時にも演奏されています。

海の太鼓 (歌舞劇団「田楽座」オリジナル)

歌舞劇団『田楽座』のオリジナル曲で、船出する漁師を元気づけ、送り出す太鼓です。大岩に砕ける荒波のイメージをバチにのせ、明るく力強く打ち上げていきます。

海のお雑子 (歌舞劇団「田楽座」オリジナル)

歌舞劇団「田楽座」のオリジナル曲で、「海の太鼓」と対になっている曲です。漁を終えた船が、大漁旗をはためかせながら浜へ帰ってくる、明るく逞しい情景を表しています。太鼓の向きは、漁船の進む方向で、その遙か向こうの浜で待つ家族に、大漁の報告をしています。

ぶち合わせ太鼓 (神奈川県三浦半島)

神奈川県三浦半島に古くから伝わる太鼓です。祭りの時には村ごとに太鼓の腕を競い合い、負けてしまった村の太鼓は、皮をやぶられて海に放り込まれた時代もあったそうです。

別名「ケンカ太鼓」と呼ばれるほど激しい太鼓で、1台の太鼓を3人が牽い合いながら激しく打ち込む勇壮な太鼓です。

秩父屋台囃子 (埼玉県秩父市)

埼玉県秩父市に古くから伝わる太鼓で、毎年12月3日に行われる「秩父夜祭」で演奏されています。100~150人で曳く、重さ10~20トンの大きな屋台の中に、約20人が乗り込み、交代で演奏されており、大太鼓・締太鼓・鉦・篠笛で構成されています。

曲は、街角を曲がるときに演奏される「玉入れ」と、最後の団子坂を登るときに演奏される「大波」で構成されており、屋台の曳き手の士気を高めるために演奏されています。